

地方創生特別委員会

問 霞溪舎の利用料金の時間と利用実績表を見ると条例通りではない。

答 4月から利用開始しているが、運用面を優先して柔軟な対応としていたが、今後は条例に合わせた利用料金に改めます。

問 「まちづくり工房」プロジェクトを担当する木藤プロデューサーの経歴は。

答 木藤氏は福岡県出身で、宮崎県日南市の油津にあるシャッター商店街を、わずか3年で劇的によみがえらせ、約30社の企業、事業所を進出させ町の再生に携わられた実績がある。

問 「BABAラボ岐阜池田」では立体型の夜光タスキを開発され、広報いけだ4月号で「60歳以上の世帯に」

本を進呈します」と呼び掛けられました。引き続き、町としてPRできないのか。

答 町としては、シニアクラブの総会や各区での町政報告会などを利用して支援していく。



真横からもはっきり分かる夜光タスキ

問 霞溪舎の利用可能な時間帯で無人となる場合があるが。

答 現在の運営は水曜日が定休日で、6日間は朝から夕方まで常駐し、夜間は予約があれば開室する。運営委員が少数で一時的に無人となったと思われる。

問 霞溪舎のトイレは外部からも利用できるよう要望

し、設計変更された。夜間も利用できるのか。

答 トイレの利用については、当面、開設時間を限定し、外部からわかるように表示する。管理者には、利用方法を十分に説明し徹底を図っていく。

養老鉄道存続特別委員会

◎ 審査案件

養老線交通圏地域公共交通網形成計画（素案）の概要について

問 平成28年度養老線の利用現況値620万人とあるが、個別指標による利用者数から推測すると差異が生じるが、その要因は。

答 執行部より、定期券利用者は、決められた算出方法による算出で、定期券外利用者、切符の売上げ枚数、また一日フリー切符は、2回利用とするなど基準を設

けた算出数となっている。

個別指標の数は、ある日の実数となっている。

利用者数は、沿線市町が養老線存続の為にイベントを開催し、前年度対比で増員となっている。

	H27	H28(見込み)
全体	-	744万人
養老線	601万人	620万人
バス交通	-	124万人

問 6月の補正予算で養老線利用促進助成事業として、回数券タイプの「マイレールチケット21」を75歳以上の方に1割助成、運転免許自主返納後の方に4回を限度としての全額助成などを提案されたが、今年度限りの事業なのか。

答 人口減少に歯止めをかけるために大野町は、樽見鉄道も合わせた助成事業をしている。

問 この助成事業については、年間5千人の利用者増を目標として計画しており、来年度以降も継続していく。



問 大野町は、養老線を利用する高校生を対象に、通学定期代金の3分の1を補助するが、池田町では補助できないのか。

答 池田町では大垣方面へ通学する生徒は多いものの、同様な助成は考えていない。